広報 九州
国民の森林・国有林
平成23年3月10日
（２０１１年）
No １６７０
九州森林管理局
〒860-0081
熊本市京町本丁2－7
IP電話 050-3160-6600(代表)
http://www.kyusyu.kokuyurin.go.jp/

シカ被害の対策を考える

350人が九州森林環境シンポジウムに参加

現在、鹿児島県と宮崎県の県境の霧島連山で活発な噴火活動を続ける新燃岳を抱える宮崎県小林市の小林市文化会館において九州森林管理局主催により2月15日に、「九州森林環境シンポジウム」～霧島・増えすぎたシカによる危機を考える～と題してシカ被害の現状と対策を考えるシンポジウムを開催。森林林業関係者や一般市民、行政関係者など約３００人の参加がありました。

熱心な議論が展開されたパネルディスカッション＝小林市文化会館

シンポジウムは第一部／報告、第二部／パネルディスカッションの二部構成で、第一部の報告では、専門の立場から5人の報告と九州森林管理局のシカ対策に対する取り組み状況の報告が行われました。

はじめに専門家からの報告では、宮崎植物研究会会長の南谷忠志氏から霧島の固有種など、世界でも霧島にしか生育していない植物がシカの採食により世界から消えてしまう恐れがあることなどが報告。野生生物保護管理事務所関西分室長の濱崎伸一郎氏からはシカの頭数低減に向けての効率的なシカ捕獲の方法など実施例をもとに報告。九州大学名誉教授の三枝豊平氏からは特定の植物を餌（食草）としている昆虫が、餌としている植物をシカにより消失することにより貴重な昆虫の生存に脅威を与えていることや、シカの増加に伴い自然死する個体も増加し、その死体に寄生する蠅の一種が国内で新たに発見されるなど、シカの採食が森林の生態系や生物多様に大きな影響を与えていることなどが報告されました。また、霧島地域を代表して、鹿児島県湧水町町長の米満重満氏から長年霧島の自然を見てきた立場から、シカが急激に増加してきたことにより、霧島の自然が大きく変化してきたことなどが報告されたほか、霧島のシカ対策には県境を越えた取り組みの必要性について強調されました。さらに、宮崎大学農学部の岩本俊孝教授からは新燃岳の噴火により降灰が見られる地域では採食が困難となり、個体群が移動、分散する可能性が示唆されました。

続いて、第二部のパネルディスカッションでは、森林生態系や生物多様性を維持するためにシカの個体数調整に早期に取り組む必要があることや、シカの生息域を拡大させないため早期に対策を講じる必要があることなどについて熱心な議論が展開され、この増えすぎたシカの問題を、参加された多くの方々と情報の交換・共有化ができたシンポジウムとなりました。

（担当＝指導普及課）

自署の名山

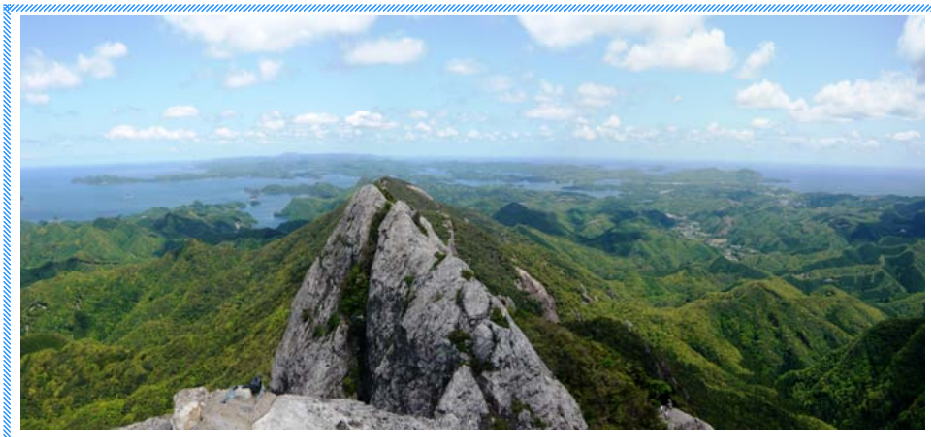
長崎森林管理署
技術専門官
竹部　浩一郎

360度の絶景「白嶽」貴重な植物の混成地

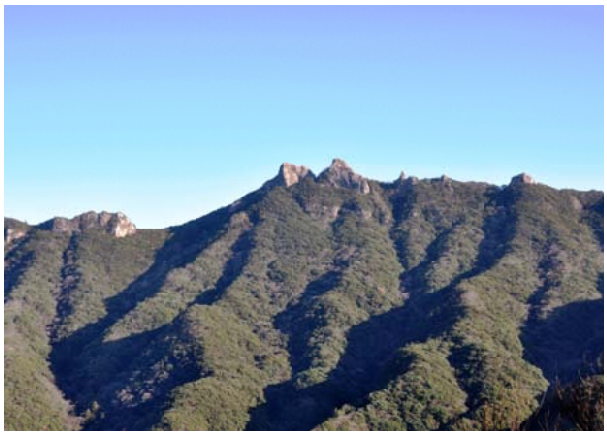
私が頻繁に登山している山、頂上からの眺めが素晴らしい「白嶽」を紹介します。

対馬島は中央に広がるリアス式海岸の浅茅湾（あそうわん）を挟んで上島と下島があります。「白嶽」はその下島の北部に位置し標高519㍍で、山頂は白い岩肌（石英斑岩）の双耳峰で、ロバの耳と呼ばれています。山頂に立つと、眼下に360度のロケーションビューを一望に収めることができます。

それでは、その風景を目にするための登山案内をします。



360度素晴らしい眺めが一望できる標高519㍍の白嶽の山頂



山頂がロバの耳と呼ばれる白嶽

洲藻（すも）登山口を出発し、白嶽神社鳥居までは約45分、登山道の途中では大岩の奇岩を見たり、鳥の鳴き声を聞きながらの比較的楽なトレッキングです。

白嶽神社鳥居をくぐれば白嶽山頂までは40分。しだいに急傾斜となり山頂近くになるとロープにつかまりながらの登山となります。歩道沿いには、スダジイ・アカガシや、リョウブ・ナガバノコウヤボウキ・モミ・ヒメコマツなどの植物を目にすることが出来ます。

さて、いよいよ頂上が見えてきたら岩壁をよじ登ります。ロッククライミングが出来るおまけつきです

山頂は広さ4畳半弱の岩場、到達して見渡すと眼下に広がる浅茅湾の北には上島最高峰の御嶽、南には権現山、有明山や対馬最高峰の矢立山。晴れ渡った日には韓国の山並みまでも望むことができ国境の島だと実感させられます。

頂上付近の岩肌には、チョウセンヤマツツジやチョウセンノギクなどの大陸系植物が自生し、日本系植物との混成地として極めて貴重な存在です（大正12年、国の天然記念物指定）。

このように登山途中にも楽しめ、頂上に着いたときの感動と爽快さを多くの人に体験して欲しいものです。私もこの風景を何度も目にしたくて、毎週末の天気予報のチェックが欠かせません。

山頂の山肌に自生しているチョウセンヤマツツジ

門川高校生13人が植樹

【宮崎北部森林管理署】2月2日、日向市の「お倉ケ浜ふれあいの森」において、日向市ふるさとの自然を守る会と協働で、「門川高校生による植樹」を実施。当日は門川高校フォレスト系列科2年生の生徒や先生13人が、当署職員や守る会会員の指導を受けながらウサギの食害などによって植栽木が枯れた個所にウバメガシやヤマモモの苗180本を植えました。その後、守る会会員の大野裕氏による海岸林内の植物についての講義が行われ、生徒からは「市民の生活を守っている海岸林を守る活動に参加して、大変勉強になった」という声が聞かれました。

植樹を行う高校生＝宮崎北部

木工教室で悪戦苦闘

【西都児湯森林管理署】西都市立穂北小学校緑の少年団4年生児童39人と父母を対象に「親子木工教室」を開催。西都市役所と西都市林活議連、地域製材所がメンバーとなっている青壮年会議所と連携して開かれたもので、当日は椅子や本立、郵便受け、スノコなどの木製品作りを行いました。初めてノコギリや金槌を使う児童も多く、悪戦苦闘しながらの作業のようでしたが、日頃と違った授業に目を輝かせて木材とのふれあいを体感できたようでした

木製品作りをする親子＝西都児湯

「木の博覧会」に参加

【熊本南部森林管理署】「木の博覧会がやってきた2011 inあさぎり」が2月5日から13日の間、あさぎり町須恵文化ホールで開かれ、当署は、「木にまつわる紙芝居」と「しおり作り」に参加しました。紙芝居では、大勢の子供たちや一般の方に森林の働きについて理解を深めていただきました。また、しおり作りでは、押し花などによる自分だけのオリジナル作品作りが好評でした。9日間で約300人の入場者があり盛況のうちにイベントは終了しました。

しおり作りをする子供たち＝熊本南部

サクラの樹に願いを込めて

【熊本森林管理署】2月19日、熊本市にある小萩園にて第4回小萩園サクラ記念植樹会が行われ、応募者約50組約120人が参加し、苗木50本を植樹しました。苗木には、サクラの樹の成長と夢とを掛け合わせた「夢の花が咲きますように」など、それぞれの思いが記されたメッセージが添えられました。「力仕事で大変だけど、やりがいがある。林業はカッコイイ」など森づくりの思いも多数寄せられました。

サクラの樹を植樹する親子＝熊本

これからの森づくりに思うこと

今年になって初めて私の山の水源が渇れた。原因を知ろうと上流を歩いてみると昔はアラカシや椎の木が密生していた自然林であった所が今は戦後の拡大造林によって、スギ、ヒノキが植えられ45年経過している。材価が安いということで間伐もしていないので、林床は薄暗くて草木も生えずガレキが連なっている。

みやざき森づくりボランティア協議会
会長
圖師　哲雄さん

ちょっと一言

私は60才まで農業を営んできた。そこで退職宣言して第2の人生を送ろうと思っていた。この世に生を受けて何かやり残した事はないかと自問する日々だった。図書館に通い1年程たった時「木を植えた男」という「ジャン・ジオノ」の絵本に出会った。これだと思った。私は自分の所有する山林を自然林に帰す森づくりをする事にした。

その頃宮崎県で全国植樹祭が行われる事が決まっていた。時代は常に動いている。全国植樹祭に合わせて宮崎県の森づくりの各団体も組織化が必要になってきていた。そこで県内13団体の組織が集まり、みやざき森づくりボランティア協議会が生まれた。

平成23年には、当協議会は21の団体になった。そこではそれぞれのボランティア団体が特長のある活動を活発に行っている。その中で私が代表を務めているロキシーヒルの会は、特に自然林に帰すために、スギ、ヒノキを5分の1残す強い間伐をして混交林にするため、会員はじめ多くの子供達と一緒に植樹、育樹の体験を重ねている。特に小学校低学年の子供達は木を植える事には喜んで参加出来ることを知った。その中で生まれる親子の絆は得がたいものがある。私はここ30年程高校生と一緒にサバイバルキャンプを体験してきたが、小中学生でも高校生でも自然の中で生活することで色々な体験をしているように思う。森は経済性を求めるだけでなく、教育的にも有用な財産だ。放置されたままのスギ山は何も産み出さないのだ。私の力はわずかなものであるが、皆が森をつくり木を育てることに興味を持ち、その輪が広がっていったら日本の山もいずれ復活すると思っている。

国有林モニター会議

現地視察し意見交換 木材利用の情報提供を

2月5日、熊本森林管理署管内の金峰山国有林および小萩園において、国有林モニター熊本ブロック会議を開き、九州各地から23人が参加しました。

午前中は同署管内の説明ののち、金峰山国有林内の利用間伐事業個所を見学しました。また、小萩園では、桜の保護、植樹活動の説明や、木材チップを利用したバリアフリーの歩道について大きな関心が寄せられました。

午後からは小萩園内の森林学習館において意見交換会を行いました。まず、林業・木材利用の現状や木材の長所、公共建築物等木材利用促進法の制定や間伐紙の取り組みを中心に説明を行いました。モニターの方々から、「環境に良いなら少々高くても商品選択するなど、消費者も協力する姿勢が必要」「国産材を使おうとしても高かったり手に入らなかったりする。木材搬出側だけでなく、消費者に近い側の企業などに働きかけをすべき」など多くの意見が出され、木材の良さは理解でき使いたいと思うが、それに応える機能性や価格の商品が少なく、購入方法や管理方法など利用に関する情報も少ないという課題が浮き彫りとなりました。

今後とも木材の良さ、利用に関する情報等を提供していきたいと思います。

（担当＝企画調整室）

森林学習館で意見交換するモニターの皆さん

シカ被害の現状を講話

【宮崎北部森林管理署】延岡アースディの環境勉強会で流域管理調整官が「シカ被害の現状について」講話し、五ヶ瀬川流域の上流部でシカの増加によって森林内が荒れてきている状況などをパワーポイントを使って説明しました。森林の惨状の説明を聞いた参加者は、改めて生物多様性に対する取り組みの重要性を感じていました。

森林の惨状の説明を聞く参加者＝宮崎北部

モニターの声

安武 次郎太さん

モニターに参加して

私は、昭和25年当時水俣営林署に実習生として勤務中、鹿児島県境に近い茂道という所に「茂道松」と称された国有林で、魚つき保安林の優良な美林がありましたが、九大生2人と共に4人で、標準木の樹幹解析を命ぜられ、実施した思い出があります。

当時は松茸も多く採れていました。その後長い間林業関係の仕事をしましたが、林業が好景気の時は、年々木材価格も高騰し、山持ちは金持ちでした。諸要因で現在低迷していますが、何れ林業・林産業が復権して、豊かな農山村になるよう「山の神」にお祈りしてモニターに応募した次第です。

さて、去る2月5日、国有林モニター現地視察に各県から23人参加し、局のマイクロバスで熊本市河内町の金峰山国有林に向かいました。当地はスギ・ヒノキの林齢39年及至59年の生育良好な土砂流出防備保安林内で、概要説明があり、モニターの簡単な自己紹介も終わって、搬出路を歩きました。現地は伐木造林、搬出経費等節減のための林業機械使用された列状間伐跡地でした。機械による伐木造材のため、伐根が高いのは仕方ないが、かつての山師は、根株周りを掘り下げてでも出来るだけ低く伐採せよと言っていたのを思い出し時代が経たのを感じました。又林地残材が目に付きましたが、林木を買った人の需要によるものでしょう。利用促進のためにも処分出来ないかと思われます。

林内の一部に孟宗竹が侵入していましたがこれも利用出来ないかと思いました。そこから小萩園に移動し、昼食後学習室で「木材利用の推進について」の説明がありました。モニターの方からは木材の利用や木造物の維持管理について、ハシが木材利用となるか？園内歩道の木材チップの敷設に関することなど多くの質問が寄せられ、予定された時間を過ぎてしまうほどでした。

モニターも3月末迄ですが、局の方には、各会議はもとより、貴重な資料や図面、広報紙「RINYA」等配付戴き、お世話になりました。現今の国有林業務の一端を理解することが出来ました。有難うございました。

（熊本市在住）

功績を評価され表彰
部外協力者に感謝状贈呈

2月16日、九州森林管理局において「平成22年度部外協力者に対する感謝状贈呈式」が行われ、功績のあった九州電力(株)、九州国有林採石協会に沖修司局長より感謝状が授与されました。

九州電力(株)は、間伐材を使用したコピー用紙「木になる紙」をグループ全体で積極的な利用を推進するとともに、平成13年度から「九州ふるさと森づくり」の植樹活動を九州各地で展開、また、苓北火力発電所（熊本県苓北町）では林地残材を利用した木質系バイオマスの混焼発電実証試験を開始し地球温暖化防止などの取り組みが評価されたものです。九州国有林採石協会は、昭和48年9月当協会を設立、以来37年間の多年にわたり国有林野事業の管理経営に尽力され、特に事業収入の確保に大きく貢献されたことが評価され今回の感謝状贈呈となったものです。

また、屋久島大屋根の会に対し、2月11日、屋久島環境文化村センターにおいて屋久島森林管理次長から局長感謝状の伝達が行われました。当会は、2003年10月設立以来、屋久島において「小さな木づかい運動」を展開し、屋久島材（スギ人工林）を島内での住宅などへの利活用の推進に寄与されるとともに、林野庁が主催する「森林の市」に連続して参加され屋久島材を島内外へ普及宣伝するなどの功績が評価されたものです。

（担当＝総務課）

感謝状を授与された九州電力（株）

感謝状を授与された九州国有林採石協会

感謝状を授与される屋久島大屋根の会

JICA研修員を受入

【鹿児島森林管理署】2月9日、（独）国際協力機構（JICA）の依頼を受け、インドの州政府林務職員2人を桜島地区民有林直轄治山事業個所に迎え研修を行いました。現地では荒廃した山肌の復旧技術や日本人独特で緻密な工種配置技術などに質問が集中しました。また、治山事業における植樹活動を体感してもらいました。研修の内容は、日本の森林・林業や国有林の現状に係わる意見交換や治山事業の意義・民有林直轄治山事業の概要説明まで、多岐にわたりましたが、何に対しても興味津々で研修生の真剣さがひしひしと伝わってきました。

治山事業個所で説明を受ける研修員＝鹿児島

人のうごき

2月26日付林野庁長官発令

国有林野管理課付
森崎　信（林野庁）

森林春秋

霧島山の豹変

エメラルドグリーンの火口湖を有し、春にはミヤマキリシマが咲き誇り、秋には湖面に映し出される紅葉など、訪れる人達の癒しとなっていた霧島山系が一変した。

1月下旬、爆音とともに新燃岳の火口湖が消滅。約300年ぶりの本格的なマグマ噴火である。

噴火で放出された灰（火口近くでは噴石も）は、風に乗り近隣市街地は灰色に染まった。降灰が続くにつれ、雨でもないのに傘をさし、噴火口に近い地区の小学生はヘルメットを着用した。

県外からを含め、多くの方がボランティアで公共施設や福祉施設などの清掃、灰の除去に汗を流されているが、見ず知らずの地域での善意にあらためて頭が下がる思いである。

昨年の口蹄疫から鳥インフルエンザに続き今回の噴火、宮崎は苦難の連続であるが、周囲の暖かい声援を受け必死に耐え忍んでいる。

霧島山の山頂で大きく深呼吸出来る日が、一日も早く来ることを願うばかりである。

（都城支署長　迫口　親）

JICA研修員が屋久島視察

【屋久島森林管理署】2月7日～8日の2日間、国際協力機構（JICA）からの依頼を受け、インド環境森林省局長級の研修員2人を受け入れました。研修員は世界自然遺産地域における森林の管理について情報収集するため来島したもの。遺産地域、自然休養林、シカ捕獲試験地を視察後、森林環境保全センターの濱田自然遺産保全調整官が「屋久島における課題と取組」について説明。シカ捕獲等に関心が高く意見交換も頗る活発で充実した研修となりました。

現地を視察する研修員＝屋久島

樹木に関心深める

【熊本森林管理署】山都町立清和小学校にて6年生児童12人を対象に森林教室を行いました。プロジェクターを使い「木」の役割や大切さを説明した後、3班に分かれ、校庭の樹木に児童たちが作成した樹名板を掛けました。児童たちは、6年間ともに成長してきた樹木のことを学び、樹木への関心を更に深めた様子でした。この模様は町の広報誌や地元新聞にも掲載され、国有林の活動をPR出来ました。

樹木に樹名板を掛ける児童ら＝熊本

わくわくECO！フェスタ開催

【宮崎北部森林管理署】2月6日、延岡アースディが主催の環境をテーマにした「わくわくECO！フェスタ」が延岡市で行われ、当署は「シカ被害対策の取組」「九州間伐紙「木になる紙」の普及」のパネル展示を行い、参加者は森林被害の写真などを食い入るように見ていました。また、他のイベントの合間に「シカと森林のカード」を使って環境教育も行い、参加者は知識を新たにしていました。

カードを見る親子＝宮崎北部

都会の中の憩いの森 監物台樹木園の多様な植物

㊷ サカキ（ツバキ科）

サカキは普通に見れると感じているが、いざ探すとなると苦労する。土地が肥えていて水はけのよい土地に生えていることから、ある程度高齢のスギ、ヒノキ林の谷筋の風通しがよく木漏れ日のある林縁を中心に探すとよい。

九州の神事にはサカキが必ず使われるが、本州中部以北にはサカキがないことからヒサカキが使われている。名前は「栄樹」からで、葉が一年中緑色であることからの名前である。榊は漢字ではなく、日本で作られた「国字」です。サカキが神道の神事に使用されることからこの字が生まれたと考えられる。

サカキの見分け方は、枝の先端が芽が弓のように曲がっていることに注目するとよい。

サカキの分布は東京近辺にはわずかしか分布していない（日本林業樹木図鑑第2巻）。神事の事始めはわからないが、サカキの多く分布している奈良、京都で始まったと思われる。樹木園には、西側の中央付近に7本あり、幹全体に1年中緑色の葉をつけている。

みどりの散歩路

日増しに暖かくなり、春の訪れを感じるようになってきました▼ある日、電車の窓から見えるいつもと変わらぬ景色を眺めながら通勤していると、新しいものが目に飛び込んできました。「あれは、もしかして!?結構かっこいいかも・・・」と心の中で思いながら見たものは、鹿児島本線川尻駅～宇土駅間沿いの熊本総合車両基地に止めてあった新型車両の新幹線でした▼今月12日にいよいよ九州新幹線が全線開業します。全線開業になることで、鹿児島中央から博多まで最速1時間19分と時間が短縮され、山陽新幹線との直通運転で乗り継ぎなく大阪まで行けるなど、とても便利になり快適な旅が出来るみたいです。ただ1つ残念なのは局の最寄り駅の上熊本駅に特急列車が止まらなくなり不便になってしまう事でしょうか・・・▼新型の新幹線は、木製の肘掛けやテーブルなど和を意識した内装で、パウダールームも完備され女性に優しい車両になっているとのこと。これから暖かくなる季節、新幹線に乗っていろんな所へ旅行してみたいものです。（恵）